

事務事業評価表 平成22年度

政策 明日につながる産業の振興  
 施策 都市型農業の推進  
 基本事業 地産地消と消費者との交流

事業名 **都市と農村交流事業**

[0764]

部名	経済部	事業開始年度	平成18年度	実施計画事業認定	対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市内農業者及び市民</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 都市と農村の交流を推進するため、グリーンツーリズム関連事業者(農産物直売所 貸し農園 加工各部会)との連携を図るとともに、農村景観、農業まつり等各種イベントを開催する。</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) ・農業を介しての都市と農村の人的交流を盛んにする。 ・農村の自然や文化に触れあうことで心身のやすらぎの場を提供する。 ・江別産の農畜産物の消費が拡大され、生産者の所得増につなげる。</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市内農業者	人	1,467	1,351	1,347	1,322
対象指標2	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,568
活動指標1	イベント開催回数	回	15	22	19	20
活動指標2	各部会等開催回数	回	8	9	7	10
成果指標1	グリーンツーリズム関連施設の利用者数	人			188,210	210,000
成果指標2	イベント参加者の関心度	%				80
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	497	652	433	844
正職員人件費 (B)		千円	5,443	5,015	5,809	5,830
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>5,940</b>	<b>5,667</b>	<b>6,242</b>	<b>6,674</b>

費用内訳	
21年度	報償費 42千円、旅費 8千円、需用費 307千円、使用料及び賃借料 77千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

### 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
 妥当である  
 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

都市型農業を展開している当市において、都市と農村の交流は、農業への関心をもってもらい最も最短の事業であるため、妥当な内容であります。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
 貢献度ふつう  
 貢献度小さい  
 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

都市住民に農村部へ足を運んでもらうことが都市と農村の交流の第一歩であり、農村地域の農産物直売所や貸し農園を利用することで、江別産の農畜産物の消費が拡大され、生産者の所得増に寄与することから貢献度は大きいです。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

あがっている  
 どちらかといえばあがっている  
 あがらない

理由・  
根拠は？

農業者と農業関連機関による協議会（江別市「まち」とむら」の交流推進協議会）の三部会（直売所・貸し農園・加工）の取組みにより直売所・貸し農園の利用者数および加工品の売上げは増加しています。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
 成果向上余地 中  
 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

より一層のPRおよび新規事業の実施（農業体験バスツアー）を行うことによって、さらに都市と農村の交流の機会を増やすことができると考えられます。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある  
 ない

理由・  
根拠は？

将来的には農業者が自ら率先して各種イベントに取り組むことにより、時間的コストを削減できると考えられます。